

生活支援体制整備事業

～住民が主役の「支えあい」活動～

社会保障給付費の推移

出典：社会保障改革に関する集中検討会議第10回資料



必要になってくるのです。
う仕組みをつくる「互助」が
と自分たちの地域で、助け合
て病気を予防する「自助」
ひとり健康への意識を高め
いいのでしょうか。
そこで、これからはひとり

このままでは、みなさんが
年をとった時、安心して老後
の生活を送ることができませ
んよね。
それでは、一体どうしたら
いいのでしょうか。

また、それとは逆に医療や
介護の仕事をする人は足りて
いません。

増え続けていきます。

お年寄りが増えて病院や介
護サービスを使う人が増える
と、それだけ、社会保障給付
費がかかります。グラフを見
てもわかるようにこれからも

これから重要なのは
「自助」と「互助」



外出頻度と歩行障害の発生リスク



外出頻度と認知症の発生リスク



元気なうちは、なるべく外出をして、友人・知人との
楽しい時間を過ごしたり、地域で趣味のサークルやまち
づくりに取り組んだり、積極的に社会参加をしていく
ことが大切です。
こうした社会参加活動に取り組む人は、歩行障害や認
知症になりにくいという調査結果もあります。

どうして「自助」が重要なもの？

どうして「互助」が重要なのですか？

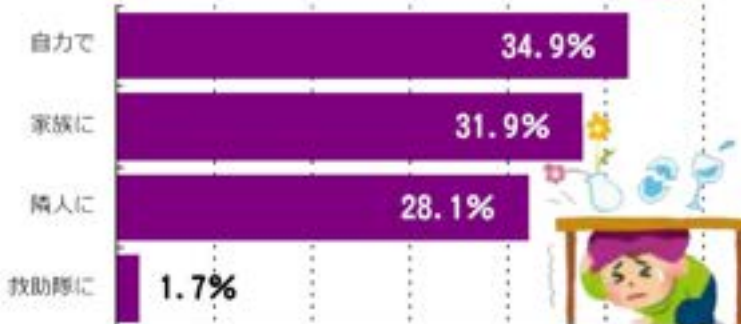
地域での「支えあい」活動の特徴は、支援やサービスを通して、地域の住民同士がつながることです。

阪神・淡路大震災の時に、地域のつながりが強かった地区ほど、生存者が多かったことからわかるように、日常の生活だけではなく、いざという時にも、みなさんの命を守ってくれるのは、地域の人たちなのです。

とは、いうものの、ではどうやって地域「支えあい」活動をつくっていくにはいいのでしょうか。

そこで登場するのが、「生活支援コーディネーター」です。

生き埋めや閉じ込められた際の救助



出典：(社)日本火災学会「兵庫県南部地震における火災に関する調査報告書」

生活支援コーディネーターとは？

地域での助け合いや支えあいの活動を把握し全体へ情報発信していく存在。また、支えあいの仕組みづくり等の支援を行います。

第一層協議体とは？

通称「支えあいたい東そのぎ」として、生活支援コーディネーターと共に地域での支えあいについて考動して下さる有志の方々。

支えあい活動の広がりを目指して、第一層協議体と生活支援コーディネーターが旗振り役となって地域での事業説明や立ち上げ支援等の活動を行っています。令和3年度にはその活動の中から2つ素敵な支えあい活動がスタートしましたので簡単にご紹介いたします。

くらもと集いの広場「桜」

東彼杵町第一号の支えあい活動として、蔵本地区の高齢者を対象に、ふらっと気軽に立ち寄れる居場所として活動を開始しました。外出するきっかけをつくり、外出することで得られる体力面でのメリットと、人と話す機会の増加によって得られる精神面でのメリットがあります。気の向いた好きな時に参加できるという気軽さから、集まりごとに消極的だった方も気楽に参加されています。



買い物支援サービス「あたご」

二つ目は、川内・飯盛地区の買い物支援サービス「あたご」です。自家用車がなく自分だけでは買い物に行くのが困難な方を対象に月に1回町内のストアーまで送り迎えをしています。車は社会福祉協議会デイサービスのワゴン車の空き時間を活用し、ドライバーは地域の有志が勤め、付添ボランティアとして婦人会も同乗するなど、地域全体が一丸となって高齢者の買い物をサポートしています。



活動に至るまでの過程など詳細は社会福祉協議会（末竹）までご連絡ください。お電話でも直接社会福祉協議会にお立ち寄りいただいても構いません。地域の集まりなどにも出向き説明もさせていただきますので、是非お気軽にご相談くださいませ。皆様からのご連絡お待ちしております。

連絡先：東彼杵町社会福祉協議会（担当：末竹） ☎0957-46-0619